

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900067		
法人名	株式会社 モデンナ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム 香取の杜 中々		
所在地	千葉県香取市小見川5598-1		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成30年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

香取の杜 中々は、グループホームの他にデイサービス・ショートステイを併設している複合福祉施設です。居宅介護支援事業所を持っていないため地域の居宅介護支援事業所との協力関係の維持促進に力を入れている。併設のデイ・ショートとの交流や地域行事を積極的に取り入れ入居者様が地域から孤立しないよう支援している。今年は10周年ということで、利用者様とスタッフが協力し約100名分の粗品を作成したり、クリスマス会には50名分のプレゼントを作成、ハンドベルの発表など施設イベントに積極的に参加している。また、日頃の日課の中でご本人の嗜好や特技を活かした役割分担があり、メリハリのあつた活動的な日常生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香取の杜中々」はデイサービスとショートステイが併設された和を基調とした平屋建ての施設である。併設施設とは、合同行事での交流・合同避難訓練・嘱託医や看護師との連携・機械浴槽設備の使用等、様々な場面で連携を図っており、入居者のニーズに合わせた支援が可能となっている。また、併設施設との合同行事等で交流の機会もあり、入居者の楽しみとなっている。外出を楽しめる支援として、地域の行事・祭り・催し物・集会等へ積極的に参加しており、地域住民との交流を広げ、施設の理解促進や入居者の生活活性化に繋げている。定期的に柔道整復師によるマッサージサービスを実施すると共に、リハビリ体操や個別訓練を行う等、身体機能の維持及び向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス提供として、事業者独自のものを構築している。毎月のカンファレンスや勉強会にて理念を共有化し実践している。	「安心と尊厳のある生活支援」を目指した施設理念を掲げており、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。年間計画に沿っての新人・現任研修や勉強会を実施する等、全職員が理念の確認・共有に取り組んでいる。また、毎年施設目標を掲げ、日々のサービス提供場面で理念を意識し、具体的なケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人の出入りは多く交流の機会が必然的に出ている。くもんや余興のボランティアを定期的に受け入れ、併設のデイやショート利用者との交流の機会を多く取り入れている。地区の祭りは子供神輿が施設前に来てくれ一緒に踊ったり参加している。	地域行事等への参加を通じて、地域との交流を図ると共に、家族・ボランティアを招いての施設行事の開催等、積極的に交流の機会を設けている。また、職場体験及び専門学生の実習を受け入れ等、様々な形で世代間交流や地域貢献に取り組んでいる。他にも、保育園児との交流行事が入居者との良好な関係を築いており、楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香取市地域密着型サービス連絡会の一員として認知症相談窓口とし地域住民に開放している。香取市の認知症フォローアップ研修の講師を依頼され、認知症の介護について講義を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に区長、民生委員、市職員、利用者家族、家族代行(後見人)に参加していただき利用者様の状態・行事や活動報告・消防訓練や研修の実施報告を行っている。毎回意見交換の時間を設け様々な意見交換を実施している。	運営推進会議は市職員・民生委員・地域住民代表・家族・職員等が出席し、年6回開催されている。会議では施設の施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めている。また、水害時の現状課題や身体拘束等を議題に取り挙げ、意見・提案をもらう等、会議の形骸化防止・参加者との協力体制の強化・出席率の向上に取り組んでいる。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が関わるサービス連絡会、市行政・医師会との交流会やネットワーク会議での研修にも積極的に参加している。また、メールや電話でもこまめに連絡を行い連携を取っている。	市とは日頃から業務全般における相談や情報交換を行うと共に、運営推進会議の市職員による運営推進会議への参加もあり、その都度、意見・情報交換が行われており、サービスの質の向上に活かしている。また、地域密着型サービス連絡会に所属し、市と意見交換・情報交換を行う等、相互に地域福祉の問題解決や活性化に取り組む体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し廃止委員会を設置し2ヶ月毎に委員会を実施している。面会・外出・外泊は自由で鍵をかける観点から常に見守りを心がけ利用者様が自由に行動出来るよう身体拘束等は実施していない。県の身体拘束廃止研修を受け勉強会につなげている。新任職員オリエンテーションでも実施している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部の研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。身体拘束廃止に関する指針の整備や廃止委員会の設置及び委員会の定期開催等、適切な支援方法を策定している。施設方針や取り組み状況については、運営推進会議時の議題に取り上げる等、周知徹底・理解促進を図り、家族からも理解が得られた入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社理念に定められており、各職員の名札の裏に印刷しいつでも確認ができ日頃から職員相互で注意を払い防止している。県の研修を受けた者が施設内の勉強会につなげ、施設全体として取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の社会福祉協議会や地域包括支援センター、介護福祉課・社会福祉課との良好な関係を築いている。現在1名の利用者様が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みのあった方に対し十分に説明を行い、ご理解と納得をしていただいた後入居していただいている。時にはご本人と関わりのある方々に必要に応じて参加していただき時間をかけ不安の無いよう配慮し説明を行っている。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来訪時に会話の時間を設け直接その場で意見交換が出来るよう配慮している。また定期的にご自宅へ訪問しご希望を伺うようにしている。ご意見箱も設置。遠方に居住されているご家族様には毎月こちらから電話をしご希望を伺いケアの取り組みに活かし、利用者様がその方らしく生活出来るよう家族と相談しながら対応をしている。	家族の訪問時・電話連絡時・イベント開催時・運営推進会議開催時を活用する等、意見や要望を引き出すための機会作りや雰囲気作りに努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送りノート等にて周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。日々の生活を写真に綴った「ベストスマイル」を作成し、入居者家族に送付しており、理解促進及び信頼関係構築を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は必要に応じて管理者等にその都度相談をしている。ケアカンファレンス等で意見を述べる機会を設け、その意見は内容に応じて相談しながら皆で対応をしていく。	施設長会議・管理者会議・ユニット会議等を活用し、職員の意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。また、市主催の会議や研修への参加や内部研修の実施及び地域密着型サービス連絡会による同業者との交流の機会も確保されており、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の代表者は管理者・職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するため人事考課や面接を実施している。個々の努力により年2回の正社員登用制度がある。また事業全体の実績により賞与・手当等で還元している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での年間の勉強会予定を組み実施している。外部研修は出来るだけ必要に応じて参加できるよう調整を行っている。資格所得や研修参加のための勤務調整を実施。受験前は一緒に勉強する等支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス連絡会や介護支援ネットワーク会議等に参加し同業者間での交流を図っている。同系列事業所の行事や勉強会に参加したり、実習生を受け入れ指導する事で一緒に学びケアの向上を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と十分に話し合いを持ち、又は状況に応じて家族、前任のケアマネや民生委員等関わりのある方々との面談を実施し情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に丁寧に説明を行い、疑問や不安を傾聴し十分に話し合いを実施している。必要時には受診時等に同行し担当医からの意見も聞いている。サービス開始時も面会や電話のやりとりを行い交流を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人からの要望等や生活歴を傾聴し、前任のケアマネ等からの情報も把握し計画を作成し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者個々の嗜好や特技に合わせた役割を持って頂き一緒に行っている。家事の役割分担や家庭菜園、花の手入れ等の役割分担が自然と行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の同行や面会など協力が得られて居る。また、一時帰宅(外出)の送迎支援を実施し自宅で家族と一緒に過ごす時間を設けている。毎月ベストスマイルという写真入りの便りを郵送し、利用中の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医への受診支援、友人知人面会時の居室での対応を実施。本人の馴染みのある店への買い物や散歩外出支援。併設のデイ・ショート利用者(近所の方等)との交流を図っている。	地域の商店への買い物・地域行事や祭りへの参加等、馴染みの場所への外出を実施しており、入居者の希望に添った柔軟な外出支援を行っている。また、家族との外出・外泊・行事参加は自由となっており、家族との関係継続も支援している。併設のデイサービス・ショートステイとの交流を通じて、馴染みの関係継続・新たな関係構築も支援している。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの配席の工夫や会話の橋渡しなどの支援を実施。更に行事への参加等は相性をふまえてグループ分けをしている。トラブルや訴えに応じて、その都度工夫変更をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要になり、入院され退居された方がいるが、退居時支援、情報提供、入院先への送迎を実施している。入院先の相談員との連絡も実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に担当者を決め寄り添ったケアを実施する事で本人の想いをより多く傾聴できるよう支援している。状況によっては定期的に担当者を変更している。ケアカンファレンスで検討し個々に合わせた支援を検討し実施している。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行っている。また、必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は家族との話し合いや日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取り、詳細に記録している。定期的に会議を開催し、職員が把握した情報をもとに、入居者一人ひとりの視点に立って検討し、新しい意向や情報の共有に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から傾聴するだけではなく、前任のケアマネや関わりのある人と面談を実施している。長年の日課は継続できるよう状況に応じて実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定・健康チェックは毎日実施。表情や身体状況、排泄・食事摂取量は毎回記入。状態の安定しない方等については併設のショートナースに報告し協力体制を実施。本人のペースに合わせた日常生活が送れるよう支援している。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議(カンファ・担当者会議)を実施し検討しながら計画を作成している。毎月のカンファ時に意見交換をし状況に応じて担当医の意見・情報も得るように努めている。	本人・家族の意向や記録を基に、計画作成担当者が原案を作成し、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。実施状況や介護計画の見直しについても、日々の記録・気づき・工夫等を活用しながら検討を行い、全職員が統一したケアの実践に向け取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に様子や気づき、実践を記入。更に毎月のカンファ時に担当者が個々の日頃の様子、実践・結果、気づきを作成し職員間で共有すると共に検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力低下防止やリラックスをして頂くために柔道整復師によるマッサージサービスと機能訓練(リハビリ体操等)を実施。また、移動美容室による整髪を行い、その人らしさの身だしなみを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や社会福祉協議会が主催の会議・交流会に参加し新たな地域資源等の情報を得るよう努めている。入居前の個々の情報を元に本人と地域の関係性を把握し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族にかかりつけ医の希望を確認し必要に応じて職員が付き添い受診支援を実施している。定期的に併設のショート嘱託医による往診支援、必要時には歯科医への受診も実施。ショートの看護師との連携も有り緊急時や処置等の対応も可能。	協力病院の他、希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。また、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。定期的に内科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、併設施設の看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋がっている。他の取り組みとしては、定期的に柔道整復師によるマッサージサービスが行われており、身体機能の維持及び向上に繋がっている。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録やチェック表を活用し、状況に応じて併設のショート看護師と連携をとり、オンコール体制をとっている。看護師は施設近隣に在住しており夜間も対応可能としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し情報の提供。入院中も定期的に面会し状態を把握し病院との連携を実施。地域連携室担当者とは常に連絡を取り合い情報の共有を実施。入院に備えて定期受診に同行支援を行い緊急時の受け入れ体制の同意を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期及び重度化における施設方針を説明し延命処置の同意書を交わしている。入居後も毎年実施するようにしている。状況に応じて家族に意向を確認しながら担当医の意見を元に職員間で検討を行い支援している。	重度化・終末期においては、施設指針・同意書を作成し、入居者・家族へ説明し同意も得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得の得られる支援方法の検討・統一に取り組んでいる。日頃から医療面においては協力病院の医師や関係機関等と連携を図り、その時々状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を毎年取り入れている。急変や事故発生時には併設の看護師・管理者にオンコール体制をとっている。更に普通救命講習を定期的に通講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した消防訓練を年2回実施(1回は夜間想定)。水害避難訓練は年1回実施。地域の区長・民生委員との連携を図り、地域区民センターが避難場所として開放して頂けることになっている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置している。また、災害時に備え、備蓄品も確保している。消防避難訓練を年に2回実施しており、訓練では消防署立会い訓練・夜間想定訓練・水害想定訓練等、状況に応じた避難方法の確認を行っている。併設施設との合同訓練では災害時の連携強化を図っている。市とは災害・水害時における具体的な支援体制の整備に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・プライバシー確保について毎年研修を行っている。また、ケア別に声かけのタイミングや工夫について実技訓練を実施。個人情報保護に関しての同意書を交わしている。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備していると共に、研修・会議を通じて職員の周知・理解促進を図っている。理念に「尊厳」・施設目標に「言葉使い」を掲げており、理念・目標を意識した支援の実現に取り組んでいる。日中は玄関等の施錠をせず、入居者の自由な生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の都合で物事を決めず、ご本人が自己決定出来るよう配慮し、時間がかかっても見守るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、その都度臨機応変にご本人に確認しながら支援している。レクは参加型。食事也希望により時間をずらす等配慮している。希望時にはマンツーマンでの買い物支援を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の移動美容室の提供。服装や髪のはれはその都度声掛けし支援し、更衣時の衣類は希望に添った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は併設施設の調理員が行っており献立は栄養士が作成しているため栄養バランスがよく個々の好みに配慮。準備・盛り付け・配膳・片付けは入居者様と一緒に共同で行っている。	食事の調理・献立作成は、併設施設の専属調理職員が行っており、栄養バランス・身体機能等に配慮した食事提供がなされている。定期的に行事食・外食会・誕生会等を企画・実施し、一人ひとりの嗜好や身体状況に配慮しながら、調理方法・盛り付け・提供方法等に工夫を凝らし、食に対する様々な楽しみを提供している。イベントには家族やボランティア等も参加しており、食を通して外部の人達との交流も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立であり食事、水分の摂取量を毎回記録把握し、不足の場合は本人の好む食物や飲み物を提供。定期的におやつ作りを実施しており楽しみのある食事提供に務めている。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導と介助を実施し記録している。食事前には口腔体操をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご本人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導、介助を実施している。	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、水分チェック表の活用・個別リハビリ・散歩・医師や薬剤師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、都度乳製品の提供、腹部マッサージ等自然排便を促すよう支援。また、併設施設の医師・看護師に相談し服薬や浣腸等の処置を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節感を味わう菖蒲湯やゆず湯等実施。またリラックス効果のため音楽・入浴剤を使用。施設内の大浴場を利用し併設施設の利用者とのコミュニケーションも図っている。入浴回数・時間帯は本人に確認し実施している。	入浴については、入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応している。併設施設には機械浴槽が設置されており、身体状況に応じた入浴支援も可能となっている。他に沐浴剤や季節の草花・果実を活用しており、入浴のがより楽しく、気分転換となるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望に応じて午睡時間・休息時間を確保している。個々の生活リズムに応じ食事時間をずらしたり起床・就寝時間のケアを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説を常に確認できるようにし服薬状況を把握し薬の変更時は申し送りノートを活用し情報の共有を実施。特変時は併設の看護師の協力が得られる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や特技に合わせた役割が自然と出来ており支援している。家庭菜園での収穫や花壇の花の生長を楽しみ、時にはデイでのレクに参加しコミュニケーションを図りながら楽しんでいる。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物は日常的に実施し、昔なじみの地域の祭りには毎年参加している。またご家族の協力を得て一時帰宅を実施(施設送迎)他に季節に応じた外出行事を企画して定期的に実施している。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に入居者の希望や季節等に考慮しながら外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。併設施設との合同行事等で交流の機会があり、入居者の楽しみとなっている。他にも、地域行事・祭り・催し物・集会等に積極的に参加しており、地域住民との交流を広げ、施設の理解促進や入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ同行し支払いはご自身で行ってもらう等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりを支援を実施。遠方のご家族様から贈り物があつた場合は必ず電話と手紙でのお礼の支援を実施している。カレンダーに毎日の日記を記入しており面会時には家族に見て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は和を基調とした平屋造りでバリアフリー。窓が多く広がりのある空間が有り日中は常に陽が指すよう設計されている。共有スペースには自由にくつろげるようイスやソファを設置し自由に移動が行えるよう支援している。	施設内はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを中心にソファを設置し談話が出来るように支援。一人でゆったりとしたい方には陽の指す場所にイスを置き廊下にはベンチを設置している。		

【千葉県】グループホーム香取の杜中々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の和室であり、本人が自宅で長年愛用されていた家具を持ち込んで頂いている。各居室に独立のエアコンが有り、個々の好みの空調管理が行えるようになっている。	全居室が畳敷となっており、入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、居室を自由にアレンジする事も可能となっており、生活スタイルに合わせた一人ひとりの個性が表れた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様が自由に動けるよう一緒に作成した名札や作品が飾られている。施設内の廊下全てに手すりが設置されており自由に散歩ができ、ドアは横引きで車椅子でも活動しやすく、床は衝撃吸収性の素材を使用するなど安全面に配慮している。		